密着取材！「ひな人形展」ができるまで

訪れる皆さんが一番気になるのは「この巨大ひな壇がどうやってできるのか？」ではないでしょうか。巨大ひな壇は、ボランティアの手で、作られています。

2月17日㈫ 7:30～12:00
【24段ひな壇組み立て】
早朝から11人の大工さんたちが、高さ4.18m、横10mある巨大ひな壇の組み立てを開始。資材には番号が記載されており、設計書どおりに手際よく組み立てられた。

13:00～15:30
【ひな壇の毛せん張り】
ここからは、事務局スタッフやボランティアスタッフのみで制作。ひな壇に使う毛せんは長さ10mサイズが7本。毛せんを留めるタッカー針を打ちつける数はなんと840本。

14:00～16:00
【ひな人形を倉庫から搬出】
パトリア倉庫にある、ひな人形の保管箱は約100箱。ひな壇に設置する段取りを考えながら、スタッフ総出でケースをメーン会場まで運ぶ。

2月19日㈭ 10:00～14:00
【ぼんぼりの取付作業】
巨大ひな壇24段の両サイドに設置される、ぼんぼり50基を取り付け土台をたこ糸で固定し、灯りが付くかをチェック。

2月20日㈮～2月22日㈰
【保管箱からひな人形を取り出す】
保管箱から紙に包まれたひな人形を丁寧に取り出し、破損したものがないかを確認。問題のない人形は段ごとに会場のフロアに並べる。

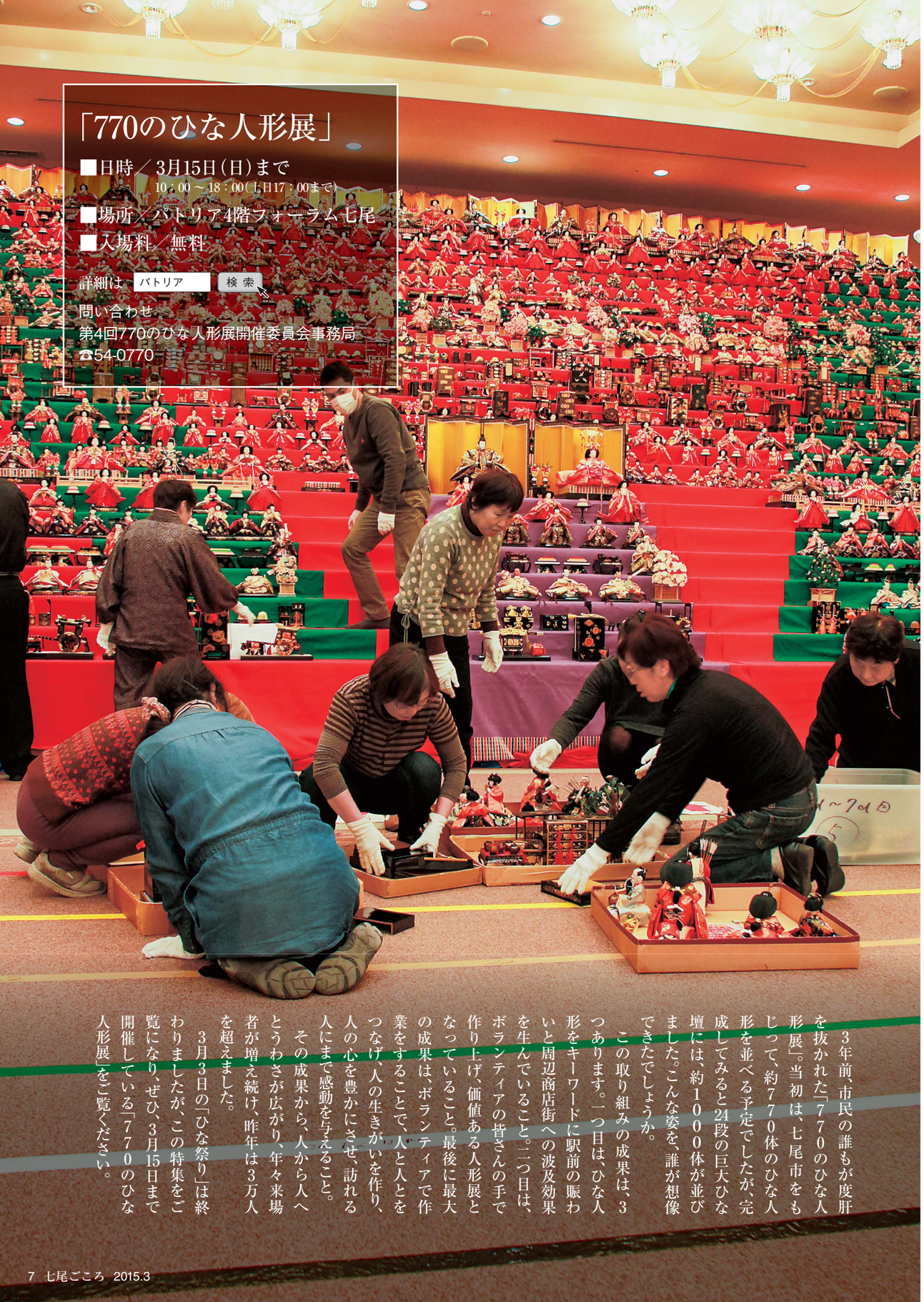
2月22日㈰ 9:30～16:00
【ひな人形の修復作業】
大切に保管している人形だが、必ず破損が出てしまう。その都度、細かい補修を繰り返す。ピンセットやペンチを片手に、細かい作業が続く。

14:00～15:30
【ひな人形設置作業】
いよいよ、ひな壇に人形を設置する作業。お内裏様とおひな様の１組ずつを、男性ボランティアが手渡しで上段へ。１組ごとの幅が均等になるように、その都度微調整が行われた。

9:30～15:00
【紙伸ばし作業】
人形や道具などが包まれていた紙を、片付ける時にも再利用するため、1枚1枚伸ばしていく。その数、約1500枚！破れやすいため、注意して作業が進められた。

2月23日㈪ 9:30～15:30
【ひな人形設置作業最終日】
女性を中心に33団体と市民ボランティア、2日間延べ120人が参加。一人一人が息の合った連携プレーを見せ、設置作業もいよいよ完成間近。

15:30
【巨大ひな壇完成】
人形を運ぶ人や修復する人、力仕事をする人や確認作業をする人など、一人一人の手で作り上げた巨大ひな壇が今年も完成した。



「770のひな人形展」

■日時／3月15日（日）まで
10：00～18：00（土日17：00まで）
■場所／パトリア4階フォーラム七尾
■入場料／無料

詳細は パトリア 検索
問い合わせ
第4回770のひな人形展開催委員会事務局
☎54-0770

3年前、市民の誰もが度肝を抜かれた「770のひな人形展」。当初は、七尾市をもじって、約770体のひな人形を並べる予定でしたが、完成してみると24段の巨大ひな壇には、約1000体が並びました。こんな姿を、誰が想像できたでしょうか。

この取り組みの成果は、3つあります。一つ目は、ひな人形をキーワードに駅前の賑わいと周辺商店街への波及効果を生んでいること。二つ目は、ボランティアの皆さんの手で作り上げ、価値ある人形展となっていること。最後に最大の成果は、ボランティアで作業をすることで、人と人とをつなげ、人の生きがいを作り、人の心を豊かにさせ、訪れる人にまで感動を与えること。

その成果から、人から人へとうわさが広がり、年々来場者が増え続け、昨年は3万人を超えました。

3月3日の「ひな祭り」は終わりましたが、この特集をご覧になり、ぜひ、3月15日まで開催している「770のひな人形展」をご覧ください。